

市史編さんだより

2007.7.3

価値ある文書を未来へ残す
～『歴史資料としての公文書』の引継ぎ作業～

市史編さん室では、毎年、『歴史資料としての公文書』の引継ぎ作業を行っており、今回、経過報告としてこの作業について紹介します。

市が作成した公文書は、永年保存文書を除いて保存年限が設けられ、その年限を経過すると廃棄されます。この廃棄される公文書の中で、行政の主要な活動を跡付けるために重要と思われるものを選別し、歴史資料として市史編さん室が引継ぎ保存をしています。このようにして保存された公文書の数は、現在までに約2,700冊になりました。

なお、この公文書の引継ぎ作業は、合併前の旧津久井郡4町作成の公文書についても行われ、過日、津久井町地域自治区事務所でも同様に実施しました。

引継ぎ後の公文書は、市史編さん室に隣接する博物館で、虫食いにより文書を破損させないようにくん蒸処理が施され、その後、市史編さん室で管理番号等を付け、右の写真のように保存箱に収納し保存されます。



このように市史編さん室に引継がれた『歴史資料としての公文書』は、現在、編さんが進められている相模原市史「現代資料編」の編さん資料として活用され、「行政の主要な活動を確かに残す」という使命を果たしています。

津久井の古文書・公文書（後編）

市史編さん室特別顧問 神崎 彰利

（前号からの続き）そこで問題は、合併を機にこの公文書をどうするか、ということですがその答えは簡単で、結論は、先人の努力によって今日に伝えられてきたこの公文書を、現在の私たちは、それを何としてでも後世へ伝える義務と責任があり、その実務にごく早期に行動する必要がある、ということです。

ここで少し古い話ですが、前の市史編さん過程で、その間に収集した古文書・公文書の保管・利用と後世への伝達のため、とにかく小さな部屋でも、ということから最終的に図書館に古文書室が設けられましたが、これが博物館の前身の一つであり、大きな役割をはたしたことは周知のことです。この時期ではこうしたことが精一杯でして、亡くなった座間美都治先生と、ことあるたび当時の河津・館盛市長にその必要性を上申したことを思い出します。また県内で最も早期な藤沢市公文書館も、更にごく最近の寒川文書館も同様な過程を経過しています。

さて、本年 3 月をもって、津久井との合併も終了し、新たな相模原市が成立しました。これを機に、私個人としては、県立公文書館（右写真）に寄託してある津久井の古文書の市立博物館への移館に少し動いていますが、それよりも各地に分散する公文書の完全な施設への移行・統合が急務だと痛感しています。それがなされない限り、県内で最良・最大の、文化遺産としての公文書の保管と利用は不可能です。それが実現しませんが、



公文書の紛失から、紙質の劣化、損傷は急速に進みますし、利用も進展しないでしょう。そのために、一気に公文書館とはいえないでしょうが、それにふさわしい施設の設立は早いこしたことはありませんし、しかも現在政令指定都市に進んでいる相模原市としては、公文書館の必要性は改めていうまでもないと思います。我が相模原市ならば、それは必ず可能なことであろうし、こうして先人からの文化遺産を、後世へ伝える第一歩を早々に踏み出す必要があると思います。

ここで、ふと一つのことが頭を横切りました。それは、上述のようなことは、あるいは前市史執筆者の唯一の生き残りの、私個人の戯言かな、ということです。しかし前市史を経験し、また津久井を長年手がけ、そして相模原に長年生きている、歴史屋の本音と思って頂ければ幸いです。行政の方々の充分なご理解を願うものです。



相模原市史関係の新しい刊行物です

「相模原市史ノート第 4 号」（写真左） 価格 600 円

「相模原市史調査報告書 1 旧石器時代遺跡

資料調査報告書」（写真右） 価格 1,400 円



市史編さん室事務室・市立博物館・各行政資料コーナーにて販売しています。

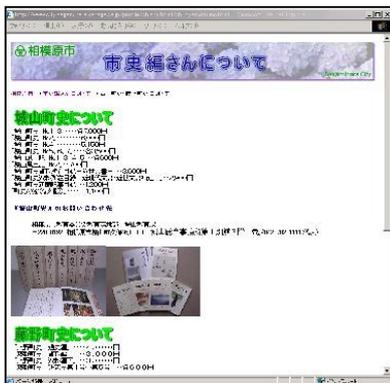


進む考古編資料調査

5月下旬から新磯野の埋蔵文化財整理室で、出土遺物の整理作業を開始しました。これは、2011（平成23）年度刊行予定の市史「考古編」刊行のための、基礎調査のうちの一作業で、6月中旬まで行いました。上の写真は、細心の注意を払いながら遺物の汚れを洗浄、乾燥させているところです。



城山町史と藤野町史のホームページができました



このたび、城山町史・藤野町史を紹介するホームページを公開しました。（左写真）刊行物の種類や価格・販売場所などについて掲載しています。（アドレスは4ページに記載しています）

なお、津久井町史・相模湖町史につきましても、ホームページを公開していますので、併せて御覧下さい。

市史編さん室のトップページ左側の「城山・藤野町史」をクリックし、表示してください。

市史講演会「相模原の民俗—その特色をどう見るか—」を開催します

日 時：平成19年7月21日（土曜日） 午後2時～4時（開場午後1時30分）

会 場：相模原市立博物館 大会議室（横浜線淵野辺駅下車徒歩20分／路線バスもあります）

講 師：小川 直之さん（市史編集委員会民俗部会部会長・國學院大學文学部教授）

内 容：今回は「市史民俗編」の対象になっている旧相模原市域の民俗について述べます。「相模原」といっても境川流域と相模川流域とでは伝承されている民俗に違いがあります。また橋本など北部地域と、相模大野など南部地域にも違いがあります。こうした市域での民俗の差異に注目しながら相模原の民俗をどう見ていくか、盆の砂盛り、摘み田、ドンド焼きなど具体例をあげながら講演します。

対 象：どなたでも / 受講料：無料 / 定員：200人（当日先着順）



編さん室の動き (5月～6月)

月	日	内 容
5	1	「市史編さんだより第36号」発行
	8	博物館の防災訓練に参加
	11	考古関係の資料借用(上矢部) 民俗編聞き取り調査(上溝個人宅)
	12	近現代部会開催
	15	城山地域自治区内の小・中学校等へ、既刊市史を配付
	16	現代資料編資料調査(横浜市史資料室、18・23日にも実施) 考古編資料調査(埋蔵文化財整理室、17日にも実施)
	22	民俗編資料調査(博物館)
	24	考古編出土遺物の整理作業開始(3ページに関連記事) 旧津久井町作成の歴史的公文書引継ぎ(1ページに関連記事)
	随時	現代資料編収集資料の選定・筆耕作業(市史編さん室事務室ほか)
	6	5
6		自然編湧水調査(当麻)
10		考古部会開催
16		近現代部会グループ打合せ(30日にも実施)
随時		現代資料編収集資料の選定・筆耕作業(市史編さん室事務室ほか)



以下の刊行物を販売しています。お求めは、市史編さん室・市立博物館・各行政資料コーナーへどうぞ。なお、送料実費負担で配送の取扱いもいたします。

刊行物名	価格	大きさ・ページ数	刊行時期
相模原市史現代図録編	1,500円	A4判・296ページ	平成16年11月
相模原市史第1～7巻	各1,900～4,500円	B5判・598～842ページ	昭和39～47年
相模原市史ノート創刊号～第4号	各350円～700円	A5判・102～127ページ	平成16年～毎年3月
相模原市史調査報告書1	1,400円	A4判・57ページ	平成19年3月

「さがみはら市史編さんだより」第37号

発 行 2007(平成19)年7月3日

編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19(市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ : <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> (相模原市トップページ)

(市のプロフィール⇒市史編さんについて、または観光・文化⇒市史編さん の順でご覧になれます。)

